＝市全体、各学校、子ども達、関係者の様子をお届け＝

CS通信①号

ー名護市教育委員会　令和５年６月５日発行ー

CS推進スローガン（導入期）

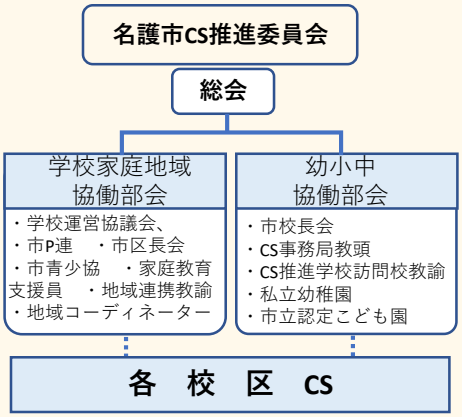
学校・家庭・地域みんなが子どもたちの「せんせい」です

名護市CS推進委員会

名護市CS推進委員会全体での方向性の確認・ワークショップ共有の様子

【名護市CS推進委員会とは】

名護市コミュニティ・スクール推進委員会は、学校・家庭・地域・関係団体が一体となってコミュニティ・スクール（以下「CS」という。）を推進することで、子ども達の生きる力の育成を図ると共に地域の持続可能な発展に寄与することを目的に活動しています。推進体制としては、右図のとおり２つの部会で構成されており、地域関係者等からなる「学校家庭地域協働部会」で横の連携を推進し、学校教職員からなる「幼小中協働部会」で縦の連携を推進しています。年２回の総会では、一堂に会し横と縦をつなぎ市全体の方向性の確認、各学校（または地域）の情報の共有を行い市全体でのCS推進を図っています。総会とは別に年１回各部会を開催しそれぞれのテーマに応じた具体な協議をしています。



今回のCS推進委員会での確認ポイント

【学びの一貫性】

幼小中の発達段階に応じた系統性のある連続した学びの「縦のつながり」、目指す子どもの姿を家庭や地域と共有・連携した地域に根差した「横のつながり」の「縦」・「横」を一貫した学びにつなげ確かな学力（資質能力育成）を身につける。また、子ども達に周囲の大人が関わり交流・声掛けを通して、自己肯定感や地域社会への関心の高まり、よりよい社会の実現に向けた「市民性※」育成の視点も大事にしたい。

※市民性とは、まわりの社会と積極的に関わろうとする意欲や行動力

【互恵的な関係づくり】

名護市CSを充実した取組みとするため、「学校・家庭・地域・老若男女が互いに学び合い、支え合い、互恵的な関係」が重要と捉えています。どんなに良い活動でも、一方向の想いのみでは続かないため、お互いの願い（メリット）を確認し、持続可能な活動へつなげていく。CSの取組みを通して、関わる方が豊かになる取組みにしていきたい。

グループ討議（熟議）

「つながる」CS　～協働活動が創る互恵性～

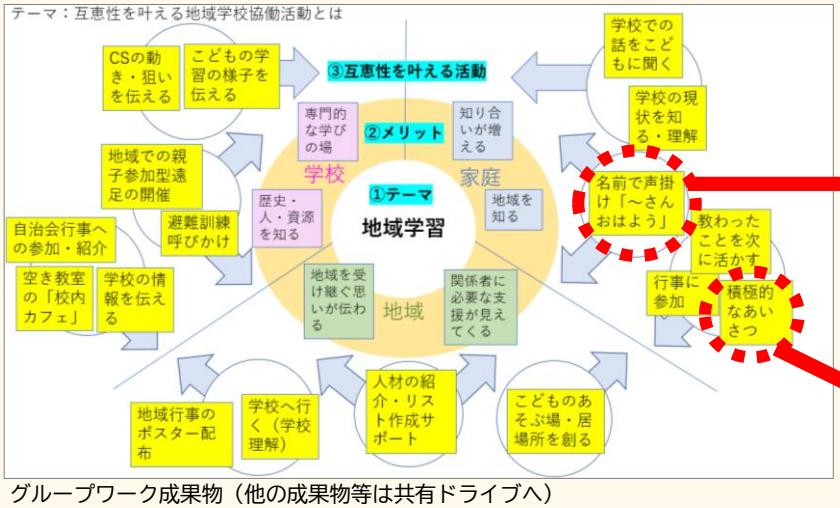
＝令和5年度第1回名護市CS推進委員会協議テーマ＝

名護市のCSに関わるみんなが笑顔で続けたくなる活動にするために、ワークを通してお互いの願い（メリット）を考え、活動を進めるうえでの互恵性について協議しました。協議では、相手の願いを叶えるためにできる活動（相手を思いやるひと手間）を考えることで、関係者の相互理解を深め持続可能な活動につなげていく狙いがあります。また、　「互恵性」は、名護市CSの導入期から充実期へ向かう上でのキーワードとなっています。

ワークの流れ

①議題となる地域学校協働活動を参加者の興味に合わせてテーマを決定
②活動によって得られるメリットを貼付（相手のメリットも想像し貼付）
③相手のメリットを叶えるためにできる事・工夫を貼付(相手を思いやるひと手間)

グループワークの様子



グループワーク成果物（他の成果物等は共有ドライブへ）

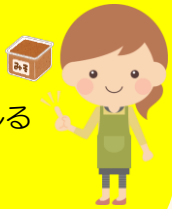
（家庭）から（地域）（学校）へ
《名前で声掛け》
↓↓
（地域）（学校）
自己有用感・やりがいにつながる

（家庭）から（地域）へ
《積極的なあいさつ》
↓↓
（地域）やりがいにつながる

メモ

今回のここがミソ♪

①３者の考えの違いに気付き相手を理解する
　〇立場で付箋の色を使い分け考えの見える化
　〇他者の意見は否定しない
②関係者のワクワクを引き出す
　〇ワークを通してつながることでの可能性の広がりを感じる
③互恵的な関係で持続可能な活動へ
　〇互いの願い（メリット）・想いを考え伝えあう



参加者の声

〇互いの協力関係（互恵性）についての熟議は、校区CSでの熟議でも使える。
〇他協議会と交流することで気づきがあった。
〇「見える化」はキーワード！
〇PTA活動等とCSの活動が重なる部分もあり負担に感じる部分もあるが熟議を通して整理していきたい。

CS通信ってなに？

1. 名護市全体でのCS推進の取組み発信
2. 各学校でのCSの取組み発信
3. 先生の地域と連携した授業づくりを共有
4. 子ども達の地域に根差した活動を発信

記事募集中

＝お知らせ＝

名護市CS研修会（講演会）【予定】
日時：7月27日（木）15:00-16:30
開催方法：ZOOM
講師：相田　康弘　氏
（山口県美祢市立大嶺小学校校長、元CSマイスター）

＝　お問い合わせ　名護市教育委員会　学校教育課　学校支援係　☎43－7270　＝